

7～  
10月

# 観察名人になろう ver.1 小学校3・4年生 理科

File A - 9: 観察を通して、動植物の特徴を知るプログラム >>>>> 小沼周辺の生き物を観察してみよう

赤城山小沼・鳥居峠・覚満淵・ビジターセンター (所要時間120分)

小沼周辺を散策しながら、トンボやチョウ・甲虫などの昆虫や、花や樹木などの観察をする。



【解説】生き物を扱う時の注意点、植物の名前の由来、植物の体のつくりの特性など。

(ねらい)動植物の観察から、体のつくりを知り、環境との関わり合いについて考えることができるようになる。

【観察できる動物】 ・トンボ類(アキアカネ、ネキトンボ、コノシメトンボ、イトトンボなど)  
・蝶や蛾類(アカタテハ、オオチャバネセセリ、クロヒカゲ、キベリタテハなど)  
・甲虫類(コクワガタ、マメコガネなど)・鳥類(カルガモ、エナガ、ウグイス)

【観察できる植物】 ノハラアザミ、ヤシャブシ、ウツボグサ、キオンなど

指導体制: 指導者1名(学年グループへの指示、指導、時間の計時) に対し 対象人数: 15～18名  
指導助手2～3名(児童の安全確保、児童の質問に対応、指導補助)

準備: 捕虫網、筆記用具、メモ

留意点: 五感を活用した活動になるように配慮する。

プログラムの関連性

## 小学校学習指導要領

### 理科 内容B 生命・地球

3年(1)昆虫と植物 身近な昆虫や植物を探したり育てたりして、成長の過程や体のつくりを調べ、それらの成長のきまりや体のつくりについての考えをもつことができるようにする。

ア 昆虫の育ち方には一定の順序があり、成虫の体は頭、胸及び腹からできていること。

イ 植物の育ち方には一定の順序があり、その体は根、茎及び葉からできていること。

(2)身近な自然の観察 身の回りの生物の様子を調べ、生物とその周辺の環境との関係についての考えをもつことができるようにする。

ア 生物は、色、形、大きさなどの姿が違うこと。

イ 生物は、その周辺の環境とかがわって生きていること。

4年(2)季節と生物 身近な動物や植物を探したり育てたりして、季節ごとの動物の活動や植物の成長を調べ、それらの活動や成長と環境とのかかわりについての考えをもつことができるようにする。

ア 動物の活動は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあること。

イ 植物の成長は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあること。